

# 日本文学研究会

平成十九年二月

幕末の江戸語管見 ―二人称を中心に―

特任教授 小松 寿雄

J・リギンズ『英和日用句集』(1860)、ブラウン『日本語会話』(1863)、E・サトウ『会話篇』(明治6)の一人称代名詞を江戸東京語の変遷の中に位置づけた。会話篇の一人称代名詞は幕末人情本などに比べて変化がはやく、明治東京語形成に及ぼした武家教養層の影響がうかがわれる。オマエサンの衰退(アナタが唯一の最高段階対称となる)、キミ・ボクの対使用などにそれが現れている。

源氏物語若菜下巻について ―女楽の後―

教授 茅場 康雄

源氏物語の若菜上下巻は物語の頂点をかたちづくる巻といえる。なかでも下巻の女楽は大規模な場面のひとつである。その女楽の直後に、源氏と紫の上の長い対話の場面が設けられている。一日、源氏と紫の上は語り合うが、翌日の未明、紫の上は発病し物語は大きく転換する。女楽を経て発病する紫の上の内面および物語の展開を「心おく」という語に注目して探った。

平成十九年度 大学院 日本文学専攻 修士論文題目

○遠藤周作研究

○村上春樹の作品における音楽

小川 仁子  
関山 真里

平成十九年度 大学院 言語教育・コミュニケーション専攻  
(日本語教育) 修士論文題目

○補助動詞「てしまう」の意味と語用

○ベトナム語における受身について

金高 浩子  
ゲン・チャン・ミン

○在日「こ」児童の日本語力評価方法の現状と課題

沼田佳保里

○JSL 児童のグループ活動参加の促進要素

―低学年クラスと中学年クラスを比較して―

間淵 美栄

○在日ベトナム人年少者にとつてのベトナム語の維持について

福原加代子

平成十九年度 日本語日本文学科 卒業論文題目

○谷崎潤一郎『痴人の愛』論

江口 美沙

○巻二十における防人歌―心情表現を中心に―

岡本みどり

○韓国人学習者における特殊拍生成

熊沢 慶子

○黄泉国と根ノ堅州国

高橋 美帆

○遠藤周作論―『沈黙』を中心に―

中山 友梨

○吉本ばなな論

福井 彬子

○源氏物語女性論

横田 朋佳

- 外国人児童・生徒の日本語教育
- 外国人児童生徒の日本語教育
- 「砂の女」論
- 五山文学について
- 寺村輝夫『王さまシリーズ』—たまごと王さま—
- 唐詩における「月」について
- 外国人児童・生徒の母語保持について
- 宮沢賢治作品の境界性—『注文の多い料理店』を中心に—
- 志賀直哉「小僧の神様」論
- 私的な場と公的な場での会話の違いについて
- 「モモちゃん」アカネちゃん」シリーズを通しての  
モモちゃんの成長
- 韓国人日本語学習者の類義語の使用実態について
- 天照大御神の多面性について
- J・R・R・トールキン「指輪物語」—指輪の破棄を担う者—
- 『猫の草子』の研究
- 芥川龍之介の現実観—「河童」を中心に—
- 太宰治『人間失格』論
- ルリグウィンが描く女性像—テナーとテル—
- 近松門左衛門研究—『曾根崎心中』を中心に—
- 千葉県地名について
- 文末表現にみられる性差と変遷
- 中国人日本語学習者の男性言葉・女性言葉の理解について
- 六条御息所—光と闇—
- 三島由紀夫「金閣寺」論
- 安房直子—作中の食べ物を中心に—

浅野真悠子  
石川友里子  
石田 梓  
磯谷 裕美  
稲見 智子  
太田美奈子  
大野友梨奈  
片岡由香理  
片桐 早恵  
金子 幸代  
河本 歩  
金 慶姫  
古畑菜々子  
小林 舞摘  
齊藤 美弦  
佐藤 慧美  
佐藤 仁美  
杉本 優  
杉山いづみ  
須合 瑞穂  
鈴木 初菜  
薛 丹  
早田真美子  
高嶋さつき  
高橋 望美

- 日本語学習者の助詞の使用実態
- 金沢方言についての研究
- 中川李枝子『いやいやえん』—中川李枝子が描く子供像—
- 芥川龍之介論—「蜜柑」を中心として—
- 藤壺論
- 「斜陽」論
- 子どもの言語獲得
- 堤中納言物語
- 「おバカさん」論
- 伊勢物語論
- オノマトペについて
- 『斜陽』—太宰治の女性観—
- 長野県諏訪地方の方言研究
- 「ながいながいペンギンのはなし」の世界—いぬいとみこが  
理想の児童文学とは—
- 宮沢賢治『注文の多い料理店』論—料理店の調度品から—
- 紫の上論
- 白居易の詩にみえる女性像
- 源氏物語論
- カルチャーショックに関する研究
- 芥川龍之介の児童文学作品—『蜘蛛の糸』を中心に—
- 夕顔考
- 中国人に対する日本語教育
- 外国人学習者の自動詞・他動詞の混同について
- 現代日本語の問題
- 新美南吉「手ぶくろを買いに」の暖かな世界

田中 瑞穂  
田村 江美  
壇 佐智子  
近島 梨紗  
土橋 裕子  
中尾 純子  
中野 美希  
中村 郁子  
永江由香子  
並木 美緒  
野崎 沙織  
濱田 阿貴  
林 千奈実  
福芝真紀子  
福田 美紀  
星野 弘恵  
三島 麻子  
村野 香織  
山中久美子  
山之内さやか  
山野邊佳苗  
劉 妍  
渡邊 望  
青木 江美  
秋山 優美

○鷗外の女性観

○武者小路実篤「愛と死」論

○フィリピンの「中等教育レベル」における日本語教育

エスティアムバ ローウエラ セバ

○夏目漱石「夢十夜」論

○「源氏物語」の形容詞

○夏目漱石『草枕』論―「那古井」の幻想性―

○芥川龍之介『幽車』論―表現技法を中心に―

○幸田露伴「雁坂越」

○会話中における長音化について

○源氏物語

○ベトナムの高等教育における日本語教育

○古代文学における鳥の考察―倭建命伝承を中心に―

○夏目漱石の用字法

○接触場面における調整行動の分析

○若者のコミュニケーションに対する意識について

○太宰治『お伽草子』論

○依頼表現について

○野口雨情の童謡観―郷土童謡を中心に―

○源氏物語論

○三島由紀夫の死生観―豊饒の海を中心に―

○感謝と謝罪表現の日韓比較

○『ものくさ太郎』の研究

○芥川龍之介論―「幽車」を中心に―

○『平家物語』論

○香川県の方言について

石田 翠

印田 美穂

○金子みすゞの詩の世界

○曹植について

○外国人の日本語イントネーション

○韓国人日本語学習者の指示詞の習得

○『蛤の草子』の研究

○『平家物語』の研究

○表現と音調

○芥川龍之介の自画像―『河童』を中心に―

○『源氏物語』にみる女性と仏教

○配慮表現について

○川端康成『眠れる美女』論

○源氏物語について

○日本語の女性言葉

○浜田広介『泣いた赤おに』の改稿に見える変化について

○「友情」論

○外国人のあいづちの使い方

○会話にみられるあいづちの変化とその機能について

○夏目漱石「明暗」論

○光源氏が愛した女性―紫の上、藤壺を中心に―

○現代小説のレトリック

○太宰治『お伽草子』論

○三島由紀夫『音楽』論

○谷崎潤一郎の女性像―『春琴抄』を中心に―

○程度副詞について

○浮世絵―美人画を中心に―

○オノマトペについて

長澤 明子

伴 典子

広崎 智里

黄 仁玉

藤田 宏美

藤野ゆき子

船山 孝子

古沢 浩子

保利 理美

前川 歩美

三河 純子

御子柴麻未

宮田佳代子

村尾 香織

望月 夏美

望月 麻希

山口真理子

吉田 衣里

依田真由美

渡辺奈緒美

阿部美菜穂

網野 愛

荒 奈々恵

新井 絵理

池田 佳代

石川 梨紗

- 芥川龍之介の芸術至上主義―「地獄変」を中心に―
- 『転寝草子』の研究
- 「童子教諺解」の漢字表記
- 花散里論
- 倭建命伝承における女性たち
- 斎藤隆介―創作民にみる(その)風土と思想―
- 初対面の人との会話における言語行動の特徴
- 『仁勢物語』研究
- 『平家物語』の研究
- 井伏鱒二『山椒魚』論
- 『愚美人草』における新しい女と古い女
- 天草本平家物語の語法
- 韓国人留学生の日本語助詞習得について
- 吉屋信子『屋根裏の二処女』―女性の自立―
- 会話における「なんか」について
- 女侠について―水滸伝を中心に―
- 太宰治『駆込み訴え』論
- 芥川龍之介『杜子春』論
- 回想表現について
- 福岡方言の研究
- 紫の上論
- 昭和・平成期の流行語
- 論語について
- 安房直子のメルヘンにおける赤と青
- 興味の有無による日本語表現の異同
- 安房直子『ハンカチの上の花畑』にみる「光」と「影」

- |       |                              |       |
|-------|------------------------------|-------|
| 市村 美保 | ○井上靖「星と祭」論                   | 福岡 寿奈 |
| 岩澤 沙織 | ○芥川龍之介の女性像―『幽車』『或阿呆の一生』を中心に― | 古谷真里絵 |
| 岩田 牧子 | ○ファンタジーの効用―『はてしない物語』論―       | 町田 桃子 |
| 岩渕あすみ | ○魔女の宅急便                      | 溝口真里奈 |
| 亀山 眞希 | ○『武家義理物語』における武士              | 森 園子  |
| 菊地 幸代 | ○フィラーの機能について                 | 山口亜津美 |
| 菊池 美貴 | ○夏目漱石「三四郎」論                  | 山口 佳奈 |
| 最首 尚子 | ○新潟方言について                    | 山田 彩  |
| 酒井 清加 | ○子どもと言語について                  | 山本佳代子 |
| 坂口 久実 | ○三浦綾子「塩狩峠」論                  | 吉澤 仁美 |
| 佐藤彩枝子 | ○『伴大納言絵巻』の研究                 | 吉田亜紗美 |
| 柴田 寛子 | ○松尾芭蕉と旅                      | 頼兼万紀子 |
| 白井悠以子 |                              |       |
| 鈴木さやか |                              |       |
| 鈴木 陽子 |                              |       |
| 高松明日陽 |                              |       |
| 楮 晓洁  |                              |       |
| 陳 晓茹  |                              |       |
| 寺沢 麻代 |                              |       |
| 冬至 麻衣 |                              |       |
| 豊沢 麻美 |                              |       |
| 中平 愛  |                              |       |
| 野田 晶子 |                              |       |
| 萩谷 麻衣 |                              |       |
| 伴 祐美子 |                              |       |
| 平柳 直子 |                              |       |